

コラム①

表紙の植物「キクザキイチゲ」

2016年までのキクザキイチゲの確認北限が2.5万分の1地形図名:港町(小平町)だったので、本会会員数名に情報の提供をお願いした。数名から文献や確認情報が届いたので2017年の春季に現地調査を行ったところ、地形図名で力昼・三溪・苫前・羽幌などでキクザキイチゲを新たに確認できた。北限は羽幌まで北上した。現時点での東限は中愛別山(愛別町愛別ダム周辺)である。

文献確認では、移入と思われる利尻島鬼脇が北限だった(佐藤雅彦 2008. 移入種としての利尻島未記録のイチリンソウ属2種(キンポウゲ科). 利尻研究 27:21-24)。キクザキイチゲは基本的に日本海側の多雪地帯などに多く、道東では確認できない。道東にはウラホロイチゲ

が分布する。アズマイチゲは全道に分布するが標高の高い場所には登らないようだ。高標高地はエゾイチゲの分布域となる。種によって住み分けているのだろう。

図示したように、○印で示した地形図名(産地)は錦岡(苫小牧市森田沼)・千歳(青葉公園)・雨霧山(栗山町不動の滝)・鬼脇(利尻富士町)などの主分布域から外れた場所で植木付きと思われる移入が確認された。

道南などは未調査の山岳部が数カ所残されている。北上するごとに●印の空白域が多くなる傾向だが、上川地方、空知地方などは今後の調査で穴埋めする予定である。

(五十嵐 博)

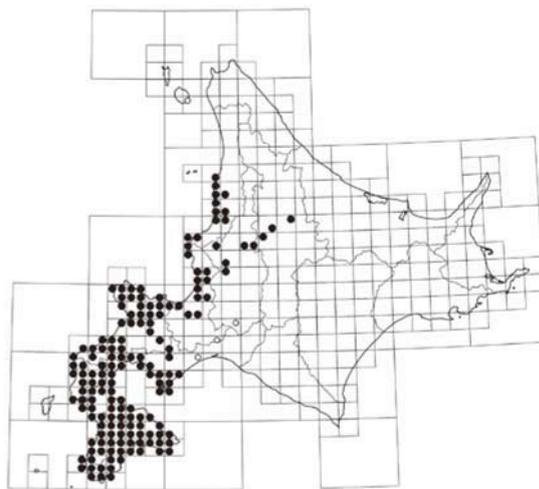


図1 キクザキイチゲの北海道分布・2017